

No. _____

Date

「銀座書斎入口の絵画スペースの
床一面いっぱいには飾られた
絵画から、 気づいたこと 」

提出日 2020年 2月 28日 (金)

英語道弟子課程 弟子 H.K.

「銀座書斎入口の絵画スペースの
床一面 いっぱいに飾られた
絵画から、気づいたこと」

提出日 2020年2月28日(金)
英語道弟子課程 弟子 H.K.

2020年2月26日(水)は、9:10より、銀座書斎内部の
清掃活動を担当させて頂きました。

清掃を開始する前に、驚くべき光景を見ました。
銀座書斎の内部の入口付近の「絵画スペース」に、
それも、床に!!、たくさん絵が、一面いっぱい
置かれておりました。「床の上」に置かれていると、最初は
思いましたが、その並べ方を拝見しますと、「飾られて」おりました。
思わず、「おっ!!」と声に出してしまいましたが、この日の清掃活動は、
このことを考えながら行い、非常に楽しい清掃活動をさせて
いただきました。特別稽古を受講したような清掃活動
でした。先生からすると、清掃活動も、特別稽古も、「同じ」と
思いますが、私にとって、30分間の特別稽古と似た、特別の
清掃活動となりました。

今日は、この気づきを、レポートにして、提出させて頂きます。

たにさんの、大きな気づきをいただきましたので、一刻も早く、先生にお伝えしたいからです。

非常に楽しくて、かつ、大きな気づきをいただく機会を、清掃活動に加えてくださいます。ありがとうございました。

〈感じたこと (感じたままを書いてあります)〉

銀座置斎「中央スペース」の床に、おん這いになって。

床を拭いていると、入口付近に一面ざらざらに置かれたたぐいしの絵画に近づく... 置かれている絵がよく見える。

どれも神聖なる絵だ...。「奥の聖域」にあったものが、すべてここまで来ているのではないかと思う。

「絵を下には置かないものだ」と、先生は仰っていた。

なぜ、これだけの絵が、床一面に置かれているのだろう。神聖な絵画ばかりを、床の上に置くという飾り方をしているのは、どうしてだろうか。

...床に見えるけど、床では無いということだろうか。床を見なさいと言って、いるのだろうか。... たしかに、隣に置かれている、ラファエロ作

「アテナイの学堂」に描かれている、プラトンの隣に居るアリストテレスは、手の平を下に向け、現実主義を示されている。そこを見なさいということであろうか。

... ここは、床ではあるけど、床ではないのだ。「浮いている」。

知るも人は自分の足で立ってはいない、ということも、先生から教わった。

「ここは、床ではない... 天井だ、天井の上だ」、4階の天井の上だと気付いた。

「天井の上に何かがあるなんて、想像する人はいない。想像しようと思わない。全この人が、天井の下で生きている。常に、天井の下にいる。」

4階にいる人... 「自分のオフィスの天井の上? ... それは、生井先生の事務所だろう。」 そのようにしか思わなかっただろう。それ以上のことなんて、想像もつかないだろう。

生井先生が、5F 銀座書斎 入口付近の床に、神聖なる絵を、スペース一面いっぱいに飾られたのは、(←置いたのではない。)

「天井の上には、何かがあるか。」

という問題を投げかけてくださったのではないだろうか... と感じた。

天井を見上げて、それは終わりではないのだ。建物の中には、

そのすべてに、必ず、天井がある。しかし、そういう話ではない。

「真実」の話であり、「普通のこと」であり、これが、生井先生の形而上学を“見える形”にしたものなのだと感じた。

(人間が作った、物理的な) 天井の上には、神聖がある。いや...

神聖がまずあって、ニ(地球、地上)がある。... それをまず、

先生が、「わかりやすく、学習者に教えられている」のだと思った。

このニが、見えて、また、見えるものが、一気に広がった。

終わりのない中に存在しているんだ、と感じた。

ニから、5Fの天井の上は? 6Fだ。Quasi-Ginza sanctuaryがある、

すると、 この、巨大な三角形になった。

私が、その絵画を見たのは、ほんの一瞬での事です。銀座書斎、内部の清掃を、「さあ、今から始めよう」と、エアコンのスイッチを切るかとして、傍に近寄った時です。以後は、すぐ、清掃を始めなければならぬのです。又、始めたあとも、鑑賞は、もちろんせず、清掃中に少し見た位の時間での事です。きちんと鑑賞しておりません... (あの日は、多数のリポート閲覧にも、心が奪われておりました。) でも、生井先生の形而上学を考える、非常に、非常に、意味の深い、かつ、楽しい、30分間の清掃時間となりました。

30分の清掃中に感じ、考えたことは、前頁までに書いたことですが、私は、「暫新な絵画の飾り方」に、次のことを感じました。

- 一般社会(虚像社会)における美で、天井の下にあるものからでは、見ることのできない美
- 一般社会にある天井を、突き破った人が見れる、本当の美。

... 生井先生の教え、そのままです。そのことを表していると思いました。『天井の下にあるものを本当だと思い、その上を想像しない。本当のことを知らずに、人生を終える人が殆ど。真美は、固定観念など、不要なものを取り除かないと見れない。あるのに!!』(すぐそこに、あるのに。)

そして、天井を突き破ったところにあるものは、神聖なる絵画の数々、でした。

神聖なるものには、真美しか描かれていないと思います。

本当の美は、真実の中にある。真実は、美しいということだと思います。
 生井先生が、銀座書斎「中央スペース」、即ち、全ての人が来られる所
 に、“見える真実”、“見える美”、“見える本当の美”を、
 絵画の飾り方を通して、伝えてくださっている。と感じました。

銀座書斎には、本当のことしかない。ということでもあると思います。

真実には嘘がないですね。嘘がない真実。

自分自身が、本当の存在にたどり着ければ、と思いました。

天井は終わりではない。

少し考えると、見える。

見たものがすべて。だけど、見たものがすべてとは限らない。

これらも先生の教えですが、これらのことを体感いたしました。

このたびの絵画の飾り方について、先生が、真に、伝えよう
 されていることは、私の気づきを、もっと超えるものであろうと想像します。
 ですが、私には、この気づきしか得られておりません。それでも、非常に、
 非常に、楽しい勉強の時間でした。

今から、どのように、自分自身の行いに反映させていくのか、
 考えます。(行うことは決まっています。)

このたびは、非常に楽しい清掃活動の時間を

賜与していただくこととなり、ありがとうございました。